

協議事項：英語教育について

英語教育改革プロジェクトチーム（案）

2013年4月1日

中原 徹

1. 背景（目的）

中学から大学まで英語を学んでも英語を実践的に使えない現状が立ちはだかっている。グローバル化が急速に進んでいるにもかかわらず、難関大学に入学・卒業しても世界で通用する英語力が身に付かないことが、国際競争力を低下させ、日本の成長を妨げている。

そのため、府教委において、小学校1年生から高校卒業（大学入学）までの英語教育を抜本的に改善するためのプロジェクトチームを立ち上げる。目標は、世界で通用する（世界の学生と英語で渡り合える）英語力の育成である。

これまでにない英語力を持ったメンバーでプロジェクトチームを作成し、外国人が入る会議では、英語で会議を行うこともできるチームを想定している。

2. プロジェクトの骨子

【小学校】

これまでの中学校での英語教育が成功していない原因が「正しい音を教えない指導方法である」との前提に立ち、「音」と「綴り（文字）」を連動させて学ばせる指導方法を小学校から取り入れる。大阪市の教育振興基本計画に記載された24小学校での英語指導改革（フォニックスを用いた指導が2013年9月ころから開始される予定）に、府教委も助力しながら、同時にノウハウを吸収し、府教委独自の小学校の英語指導パッケージを確立し、これを興味のある他の市町村にも普及させる。

【中学校】

大阪市では、同じく教育振興基本計画に基づき、上記24小学校と校区が重なる8中学校でも英語改革を行う予定。小学校と同様、府教委は、この中学校にも助力しつつ、ノウハウを吸収し、中学校向けの英語指導パッケージを作成する。

【高校】

上記の小学校・中学校における英語改革に連動した高校での（将来の）英語指導法の改革案を策定する。同時に「使える英語プロジェクト」等の既存の英語指導についても、助言・指導・改善を行う。また、高校（英語）入試改革にも関与する。

3. チーム構成

高等学校課内における既存の英語チームに加え、外部人材の職員への任用等も含めて検討し、英語教育改革プロジェクトチームを立ち上げ、上記の改革を担うこととしたい。